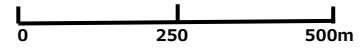


奥多摩むかし道

全長約9km

歩行約4時間



A むかし道南氷川入口-(約1.2km)- B 梶木-(約2.7km)- C 白髭神社-(約2.7km)- D 中山通行止ゲート付近-(約2.4km)- E むかし道水根入口

●裏に続きがあります。●この面は【氷川～惣岳溪谷】で、全体の約半分です。

奥多摩むかし道の歴史 *「奥多摩町誌 歴史編」を参照。

◇「奥多摩むかし道」は、奥多摩町氷川地区から小河内地区までの旧青梅街道を巡る歴史の道です。

◇青梅街道が最初に開拓されたのは慶長年間、青梅と新宿を結ぶ道でした。当時、青梅の上成木周辺にて良質の白土(石灰)が多く産出し、江戸城の改築のために輸送されました。上成木が出発点のため、成木街道とも呼ばれました。

◇その後、青梅街道は多摩川に沿い西へと開拓され小河内に達した後、大菩薩峠を越えて甲府に至ったため、江戸時代には甲州裏街道とも呼ばれました。甲州街道と比較すると2里(約8km)短く、多くの庶民に利用されました。

◇現在の青梅街道は明治11年に初めて開通した道で、鴨沢・丹波を經由し柳沢峠を越えて甲州市の塩山を抜け甲府に至るルートになっています。

◇この街道を通り、奥多摩から青梅へと、木炭、白菅、下駄材、山葵なども出荷されました。奥多摩氷川地区から青梅までは約5里の距離があり日帰りが困難であったため、氷川には馬方宿が営まれ繁盛しました。

◇旧青梅街道、つまり「奥多摩むかし道」の路傍には、今でも石碑や塔、祠などが数多く見られ、いにしへの情景がうかがえます。また、そのルート自体は現在においても各集落の人々にはなくてはならない生活道です。

◇奥多摩湖を産んだ小河内ダム。その建設資材を運ぶため、今のむかし道と並ぶようなルートで鉄道が敷かれていました。現在は廃線となっていますが、その軌道跡は今でもむかし道沿いのそこかしこで見ることができ、往時を偲ばせています。

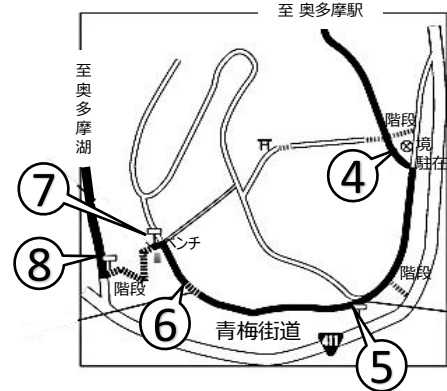
歴史・文化財

- ① 白髭神社
- ② 弁慶の腕ぬき岩
- ③ 耳神様
- ④ いろは楓巨樹
- ⑤ 惣岳の成田不動尊

歴史・文化財

- ① 奥氷川神社
- ② 愛宕神社
- ③ 羽黒坂・羽黒三田神社
- ④ 廃線軌道跡
- ⑤ 梶木(さいかちぎ)
- ⑥ 不動の上滝・小中沢橋

拡大図

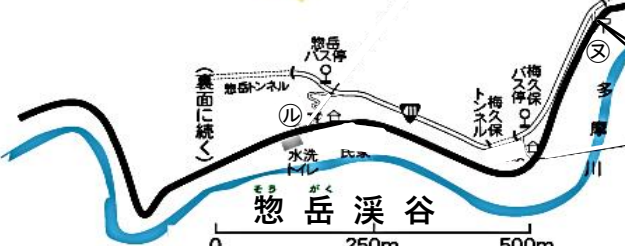


通行止区間の迂回路として国道411号(橋詰トンネル)の通行はできますが、トンネル内は細く危険ですので、お勧めできません。境橋～奥多摩駅はバス利用などご検討ください。

道標外観



写真のような道標が道沿いに23カ所設置されています。地図上に番号入りマークで道標のある場所を示しています。



奥多摩むかし道

全長約9km

歩行約4時間

0 250m 500m



A むかし道南氷川入口-(約1.2km)- B 槐木-(約2.7km)- C 白髭神社-(約2.7km)- D 中山通行止ゲート付近-(約2.4km)- E むかし道水根入口

●裏に続きがあります。●この面は【惣岳溪谷～水根】で、全体の約半分です。



歴史・文化財

- ㊦惣岳の成田不動尊
- ㊧惣岳溪谷(大蛇伝説)
- ㊨がんだうの馬頭様
- ㊩縁結びの地藏尊
- ㊪馬の水のみ場
- ㊫牛頭(ごず)観音様
- ㊬むし歯地藏尊
- ㊭玉堂歌碑
- ㊮浅間神社
- ㊯水根新道の碑

道標外観



写真のような道標が道沿いに23か所設置されています。地図上に番号入りマークで道標のある場所を示しています。

○散策時のお願い

- ・ゴミは絶対に捨てず全て持ち帰ってください。
- ・動植物は採取しないでください。
- ・トイレなど公共施設はきれいに使しましょう。
- ・集落を通るルートでは近隣住民の方に迷惑をかけないよう気をつけましょう。

東京都 奥多摩ビジターセンター

開館時間：9:00～16:30
休館日：月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
住所：〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川171-1
電話：0428-83-2037
URL：<https://www.ces-net.jp/okutamavc/>

指定管理者：(株)自然教育研究センター(略称：CES)